

心の安全基地



茨城キリスト教大学
文学部 児童教育学科
教授 飛田 隆



応援ナビ



ツイッター

1 安心できる家庭の必要性

- 『子どもは、いろいろな体験を通して、自らの心の世界を広げていきます。その成長の中で、恐れや不安を感じた時に、いつでも安心して戻れ、心のよりどころとなるのが家庭であり、未知の世界へと歩みを進める子どもにとって、家庭は「心の安全基地」であると言えます。』
- 「乳幼児にとって家庭は、活動の出発点であり、また、終着点でもあります。」



茨城県教育委員会「ひよこ」より抜粋



1 安心できる家庭の必要性

- ・ 家庭には子どもを優しく受け入れてくれる保護者の方、時には祖父母がいてくださることもあるかと思います。その方々の子どもへの接し方が重要になると思います。
- ・ 家庭の中で一番身近にいて子どもが寄り添う方が子どもにとっての「心の安全基地」になります。
- ・ 子どもは毎日、毎時間いろいろなことに興味・関心を持ち常に動いていますので、関わる方は大変だと思います。
- ・ この中には大人から見て困った行動も含まれます。



2 親のかかわり方について、子どもの思いに気づく

- ・子どもの視点で考えると「いたずら」は知りたい、やってみたい、行ってみたいという興味・関心からの行動になります。
- ・子どもにとって「いたずら」は学習であり、実験であり、時には冒険ではないかと思えるような行動もあります。
- ・もちろん、危険な事やあまりにも周りに迷惑をかけるときには止めなければならないと思います。
- ・その時になぜ、子どもがそのような行動をとるのか子どもの気持ちになって考えてみることは大切です。



3 乳幼児期の子育てのポイント

- ・危険なことはどのように止めたらよいのでしょうか、その時は子どもの目を見つめて、大切なあなたが心配なんだという真剣なまなざしと短い言葉で、例えば「あぶないんだよ」と伝えてください。
- ・ポイントは怒らないでゆっくり真剣に繰り返し伝えることが大切です。



3 乳幼児期の子育てのポイント

- ・ 子どもを叱りたくなかった時には、なぜ叱りたくなっているのか、その原因を考えてみることは大切です。
- ・ 幼い子どもは大人の都合や社会的な常識をまだ知らないという事を改めて心に留めておくことは大切だと思います。
- ・ 保護者の皆さんを困らせたくてしている事は、あまり多くはありません。
- ・ 子どもは、こちらの事情や常識に合わせる事ができない存在だという事です。
- ・ ポイントは、子どもは子どもなりに頑張ってくれたり、努力していると思ってみる事ではないかと思っています。



3 乳幼児期の子育てのポイント

- ・ 子どもたちなりに頑張ったり努力していると思えば、イライラも少なくなると思います。
- ・ 子どもの気持ちに寄り添い、子どもの頑張っていることに気が付けば、子育てをしている方の気持ちにも余裕が出るのではないかと思います。
- ・ ポイントは子育てをする方の余裕や、ゆとりが大切だということを意識することではないかと思っています。



4 最後に改めて、家庭は心の安全基地

- ・家庭が本当の意味での安全基地になるためには、子どもを育て寄り添う方々の余裕や、ゆとりが大切だと思います。
- ・子どもの幼い時は思っているほど長くはありません。抱っこしたり、触れ合ったり、一緒に手をつないだりする幸せを感じていただき、楽しみながら子育てをしていただきますことが大切だと思います。そしてその事が「家庭は心の安全基地」になるのだと思っています。

